

万博剰余金の活用方策検討  
市民万博の成果を継承発展さ  
せるNPO助成金構想

2006年4月19日

# 目次

- はじめに。－用語について
- 愛・地球博の評価
- 市民万博の内実について
  - － 市民力
- 市民万博の継承発展の視点
- 市民万博の継承①
  - － ボランティア支援
- 市民万博の継承②
  - － NPO支援(万博メモリアル「NPO助成金」)の概要
- 助成事業の枠組み
- 助成金使用・活用の一例
- NPO助成金必要性の背景
- NPO助成金の運営
- NPOへの資金支援の実例
- NPO助成金の効果
- 取組みの流れ・スケジュール
- NPO助成金設立のよびかけ人

## はじめに。一用語について。

NPO、NGOの標記について、前者は非営利組織、後者は非政府組織と訳され、違った意味合いを協調することがあるが、一般的には、どちらも「民間非営利組織＝市民活動団体」を意味するものとして使用されている。

ここでは、文章上の煩雑さを避けるため、どちらも「民間非営利組織＝市民活動団体」を意味するものとして、NPOとの標記で一括する。

また、ボランティアは、個人の行動形態を意味しているが、NPO・NGOはボランティアによって支えられており、本質的な組織性格もボランティア性にあると考えられるところから、NPOとの標記にはボランティア概念が含まれているものとする。

# 愛・地球博の評価

- 国際協働の意義の再確認。
  - 温暖化問題など地球規模の課題が世界の様々な地域で様々な人々によって取り組まれていることが感動とともに共有され、励ましあいや教育・啓発などに効果があった。
- 環境問題解決への示唆。
  - 人類にとって歴史上かつてない困難で深刻な課題である地球温暖化問題に対して、「自然の叡智」を学ぶことにより人類の進むべき道筋が示唆された。
- 市民参画の効果。
  - 市民がボランティアや事業の企画運営に参画し対話と協働・コミュニケーションの大切さを訴えその仕組みを作りあげたことが愛・地球博の成功につながった。市民参画型事業の効果を発揮した。

# 「市民万博」の内実について 市民力＝ボランティアとNPO

- 万博で市民力が活用された。高く評価されている。
- 市民力発揮の仕組みは、「ボランティア」と「NPO」の二本柱だった。
- ボランティアは、万博ボランティアセンター、市町のおもてなしボランティアなどを中心に頑張った。NPOで日頃ボランティア活動している者も参加した。
- NPOは、(ボランティア性の)組織された力として、「地球市民村」と「市民プロジェクト」を中心に頑張った。
- こうした身近なボランティアやNPOの参加や行動が人々を引き寄せ、人々を「良き行動」にかき立てた。

# 「市民万博」継承発展の視点

- 成果報償で扱うべきではない。
  - しかし、「頑張った人たち」が主張しないと共感を得ることは出来ない。
- 成果を生み出した基礎・基盤を評価する視点が必要。
  - 今回は、「環境系」が前面に出たが、市民活動は多様で複合的に活動しているし、全体(総体)が有機的に関係して発展する。
- 市民(力)の発展を促進する視点が必要。
- 二本柱(ボランティア支援とNPO支援)が必要
  - ボランティア支援(=個人力の開花支援)
  - NPO支援(=組織された力の支援)

# 市民万博の継承①

## ボランティア支援。個人力の開花支援

- 生きがい・自己実現・共生(助け合い)・利他活動
- ボランティア育成・コーディネーター育成の必要性
- コーディネート・プロデュース・研修拠点設立へ
- 愛・地球博ボランティアセンターが設立された。しかし、その発展のためには、継続的な育成・支援が必要。

# 市民万博の継承②—NPO支援 万博メモリアル「NPO助成金」の概要

## 《目的／内容：NPO活動を支援促進するための助成金》

- NPOが行う公益事業を支援する。
  - 万博の理念を継承する事業を支援。(国際協働・環境問題・市民参画)
  - 世界に日々生起する「時代の課題」解決にチャレンジする事業を支援。
  - 世界(日本・地元含む)で実施される事業、世界に貢献する事業支援。
- NPOの経営力育成・学びを促進支援する「運営」。
- 資金提供だけに終わらない。一社会的効果とNPOの成長が促進される。

## 《概要》

- 10年程度の期間限定・取崩しと寄付併用の公益信託。(コミュニティ財団方式がモデルイメージ)
- 国で20億円(年間2億円)規模、地元で10億円(年間1億円)規模。
- 運営委員会(官民協働)を設置し、運用・運営する。



# 助成事業の枠組み

## 《前提》

万博剰余金129億円が国と地元で折半される。国においてもNPO助成金が提言され、地元愛知県においても同様の助成金設置が検討されている。双方で特徴を出し、相乗効果が発揮される仕組みが望ましい。その方向に導かれることを前提とする。

## 《助成事業の種類》

- 時間軸で区分する:「単年度・2年計画・3年計画・・・」事業
- 地域軸で区分:「世界的・全国的」(国)と「地元的」(地元)
- 金額で:「大・中・小」事業に分類
  - 大:500万円～1000万円
  - 中:100万円～500万円
  - 小:100万円～50万円
- 事業の形態内容は問わない。
  - 調査研究・出版・コミュニティビジネス、……。
- 貸付型や(事業)利益還元型も積極的に導入。

# 助成金の使用・活用の一例

## ■「市民の叡智」交流プラットフォームづくりと情報発信

- 愛・地球博の成果を起点に、世界で初めての、NPO／企業／行政／学術機関等からなる総合交流プラットフォームたる「愛・地球 commons」(仮称)を構築し、市民の知、産業の知、行政の知、学術の知の交流・創造を図るとともに、総合ポータルサイトの開設・運営等を行う。
- さらに、国際協力NGOや国際協力機関等との連携を図りつつ、世界に向けて愛知発の「NPOを始めとする市民セクターと行政や企業等との協働による持続可能な地域社会モデル」を情報発信するなど、世界の中での先進的な協働モデル地域づくりをめざす。

■ ...

# NPO助成金必要性の背景

- NPOに人的資源や経験・ノウハウはある。情報を得る機会も増えている。
- しかし、それを活かすための資金(提供)が微小で脆弱なことが致命的欠陥、弱点。
- 社会的に資金提供する仕組みは未成熟。
- 行政のNPO活用も、財政合理化のニーズに偏っている。
- NPO支援育成を目的とした助成金が必要。
- 万博での爆発的な力の発揮は、資金が投下された結果だと見ている。

# NPO助成金の運営

## —運営委員会と助成事業の審査—

- 運営委員会は、助成金の管理・運営・評価を行う。
  - 官・民協働で構成し運営。
  - 審査委員会とサポート委員会を設置する。
  - 運営委員会事務局は、行政又は準じる機関で。
- 審査のために審査委員会を設置する。
  - NPO外の第三者で構成する。
  - 審査は公開参加型で実施。
- NPOの指導・助言のためにサポート委員会を設置する。
  - 構成は、NPO中心に構成する。

# NPOへの資金支援の実例

## 《実例》

- 申請団体の申請(内容)が公開審査される。専門審査委員と市民審査委員が公開投票する。
- 審査では、NPOが事業内容の意義や効果を説明し質疑を受ける。
- 審査の場が自己点検・学習(学びあい)の場であり、出会いとネットワーク形成の場になっている。
- 事業計画の立案、資金の使い方、事業運営方法などについて助言があり、また、事業評価などで、一層研鑽・学習している。

## 《効果》

- NPO活動が活性化し拡大している。地域がその成果を享受している。
- NPOの交流と学び(あい)の場となり、NPOが質的に向上し、力をつけている。

# NPO助成金の効果

- 万博理念を継承する事業が実施され万博理念が地域や社会に根付いていく。
- NPO活動が活性化し、社会貢献事業や公益事業が拡大充実する。地域や社会がその効果を楽しむ。
- NPOの交流・学びあいの仕組みと場が出来る。
- NPOの力(事業力・経営力等)が養成される。
- NPOと行政、地域の各主体の協働作業の仕組みが出来る。

# 取組みの流れ・スケジュール

- 2005年秋 意見交換(協会が聴取活動)
- 2006年3月9日 準備打合せ会
- 2006年4月7日 準備打合せ会
- 2006年4月 検討会議(協会)・地元等へ要望。
- 2006年4月 NPO等へよびかけ・アピール。
  - \* 検討委員会終了(4月27日)

◎時期を見て、NPOの会合・意見交換会開催。

・承継法人向けと地元向けで、別々に会合することになると推定。

◎承継法人・行政等と協議し1年程度以内を目途に始動。

# NPO助成金設立のよびかけ人

岩城正光(特定非営利活動法人子どもの虐待防止ネットワーク・あいち理事長)

榎田勝利(特定非営利活動法人愛・地球博ボランティアセンター(設立中)理事長)

延藤安弘(特定非営利活動法人まちの縁側育み隊代表理事)

大西光夫(特定非営利活動法人ボランタリーネイバーズ理事長)

小川巧記(元(財)2005年日本国際博覧会協会市民参加プロデューサー)

川嶋 直(社団法人日本環境教育フォーラム専務理事)

高野雅夫(エコプラットホーム東海代表)

中野民夫(元地球市民村事務局長兼NPOチームマネジャー)

萩原喜之(特定非営利活動法人中部リサイクル運動市民の会代表理事)

モンテ・カセム(愛・地球博市民プロジェクト・ファシリテーター、立命館アジア太平洋大学学長)